

新教出版社 新刊案内 2021年6月10日発売

100年前のパンデミック

日本の基督教はスペイン風邪とどう向き合ったか

富坂基督教センター編【新教コイノーニア 36】

A 5判・191頁・定価1,650円（本体1,500円）・ISBN 978-4-400-21330-7 C1316

歴史の欠落を埋める 貴重な共同研究!

スペイン風邪は、当時の日本人の4割以上が感染し、35万人が死亡した大惨事だった。しかし、基督教史にほとんど言及されることがなく、基督教が当時どのような対応をとっていたのか不明だった。本書は、

- ・各教派や学校の機関紙誌、また教界の指導的人物の日記を徹底的に読み込み、当時の基督教者が、スペイン風邪についてどのように考えていたのか、また教会としてどのような取り組みをしていたのかを探る。
- ・巻末に当時の資料からの詳細な抜粋一覧を付す。
- ・感染症対策の専門家で、東京都看護協会 危機管理室アドバイザーを務める堀成美氏の5編のコラムを付す。

【目次より】

神田健次 まえがき

戒能信生 スペイン風邪と日本の教会

——各教派の機関紙などに見るスペイン風邪の記録から

三好千春 スペイン風邪と日本カトリック教会

——カトリック系逐次刊行物史料を中心に

李元重 スペイン風邪と日本組合基督教会

辻直人 基督教学校とスペイン風邪

熊田凡人 日本の基督教幼児教育の実態と影響

——JKU年報の記録を中心に

上中 栄 スペイン風邪と再臨運動

戒能信生 基督教者の日記に見るスペイン風邪

「スペイン・インフルエンザ」「西班牙風邪」「流行性感冒」に関する資料

堀成美 II コラム

1 病む者への眼差し

2 グローバルな人口移動と疫病

3 「主がお入用」——回復後も現地に戻る人たち

4 可謬性の自覚

5 感染症の記憶